



Title	グルノーブル滞在記
Author(s)	高橋, 実
Citation	大阪大学低温センターだより. 1978, 21, p. 11-12
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/9596
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

グルノーブル滞在記

教養部 高橋 実 (豊中 2746)

私はフランスのグルノーブルにある C N R S の研究員として二年間滞在し、十月末に帰国しました。グルノーブルはアルプスの入口であり、イタリア、スイスもそれほど遠くありません。先の冬季オリンピックで有名なので、冬は雪に閉ざされる所かと思って出かけましたが、戦後は都市型気候になり、ひと冬にだいたい三日しか雪が降らないそうで、私の過したふた冬も、それぞれ正確に三日だけ雪が降りました。キーは海拔 200m のグルノーブルのまわりを囲んでいる 3,000m 級のアルプスの山々でします。本当に天気のよい日はたいして多くありませんでしたが、たまに晴れ上ると雪をいただいた連山がすぐそばにそびえ、あまりの雄大さに少しも現実感がわきませんでした。

グルノーブルにも古い歴史があります。町の北の境をなしている 400m ほどの山の頂上から山腹にかけて、ローマ時代の要塞が残っており、少しも風化しているように見えず、二千年もたっているなどとはとても考えられませんでした。旧市街は、れんが色の屋根とすすけた石造りの五、六階建ての家がびっしりと並び、古いものでは十四世紀にも逆のぼるそりです。またグルノーブル大学も消長はあったものの、十三世紀から続いているそうです。言語学者のシャンボリオンもここで教授をしていました。彼がグルノーブル高校生だった頃、数学者フーリエはここ一帯の県知事をしており、大いに彼の才能をみこんで励ましたそうです。その他、小説家スタンダールがこの町で、音楽家ベルリオーツがこの町の近くで生まれています。グルノーブルはアルプスの中心とはいえ、山ばかりで農業がふるわず、昔は大変貧しく、フランス語に「人をほうほうのいで逃げ帰らす」という意味の「グルノーブル風にもてなす」という言いまわしが残っているくらいです。しかしアルプスを背景とする水力発電が始ってからは工業の中心地となり、今では町を流れるイゼール川がすっかり汚染されています。近年になって大学や研究所も移転、増設され、三万人の学生、三千人の研究者をはじめとして、近郊も含め人口約四十万人を数え、フランスの都会の中では戦後の人口増加率が一番大きいそうです。

グルノーブルには、原子力研究所にあたる C E N G、私の所属していた C N R S、大きな中性子炉のある I L L がひとつの研究所群になっています。他の研究所もたくさんあるようですが、多すぎて私は今だによく知りません。その群の中では C E N G が一番巨大で、研究所の敷地の半分くらいを占めています。ここは警戒がかなり厳重で、特別に面倒な手続きをして許可証を作ってもらわないと入れず、門番はピストルを腰にさげています。

C N R S は主に物性物理に関する研究所が集まっており、磁性、低温、相転移、X線、静電気といっ

た研究をしています。ここでは反強磁性の研究で有名な L. ネール氏が 1976 年まで所長をしていました。彼は P. ワイスの弟子で、ドイツとの国境に近いストラスブルにいましたが、第二次大戦が始まったので、グルノーブル大学に移り、それ以来ずっとここで研究活動をして来たそうです。またここ の CNRS にはドイツとの合併の国立高磁場研究所 (SNCI) があり、20 万ガウスほどの強磁場を発生する装置をはじめ、超低温、超高压を発生させる装置もあります。一方、ILL は独、仏の共同研究所で、私が訪ねた時はミュンヘンからメスバウアー氏を一年間だけ所長に迎えているということでした。ここでの理論には P. ノジエルがいて週一回、理論のセミナーを開いていましたが、参加者は CEN G や CNRS からも集まり、常に大盛況でした。

この研究所群は、古いヨーロッパの大学の伝統のようなものを捨てて、大学から離れた所に、より広大な敷地で巨大科学的な中性子炉や、強力な電磁石を中心にして大勢の科学者が働く研究センターを作ることを目指していると言えましょう。実際に私の滞在中も、研究所の建物は増築につぐ増築で、研究者の方も、あちこちの大学から引越して来ました。またこの研究者の多くは車で二十分ほど離れたグルノーブル大学の授業も受け持っており、大学教育のレベルの確保に役立っているようでした。現にグルノーブル大学は地方国立大学ですが、自然科学では名門ということです。このようにしてグルノーブルでは研究と教育がかなりの成果をみているといえましょう。